

テーマ：景気動向指数（2016年8月）

発表日：2016年10月7日（金）

～基調判断が10月分で「改善」に上方修正される可能性も～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○C I一致指数は横ばい圏の推移が続く

内閣府から公表された2016年8月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲0.1ポイントとなった。7月の+0.1ポイントに続き、2ヶ月連続でほぼ横ばいである。C I一致指数は引き続き一進一退の足踏み状態にあると判断して良いだろう。8月の内訳では、卸売業販売額や中小企業出荷指数、鉱工業生産指数など生産関連のプラス寄与が大きかった一方、耐久消費財出荷指数や小売業販売額のマイナス寄与が大きく、全体ではほぼ横ばいである。7月は消費関連の押し上げが大きかったが、8月は天候不順の影響などもあって逆に押し下げ要因になっている。

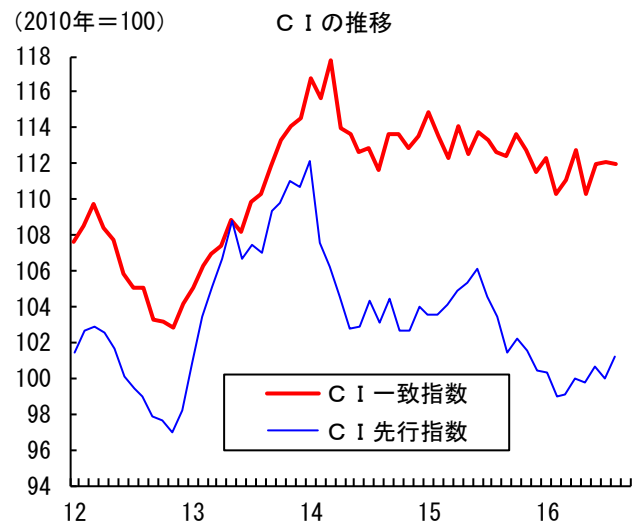
また、8月のC I先行指数は前月差+1.2ポイントとなった。内訳では、鉱工業生産財在庫率指数や中小企業売り上げ見通し、消費者態度指数の押し上げが大きかった。先行C Iは昨年夏以降、大幅に低下していたが、16年2月を底として足元では緩やかながら持ち直しつつあるように見える。こうした先行指数の動きは、景気の先行きを占う上での明るい材料だろう。

○基調判断は「足踏み」が継続だが、10月分で上方修正の可能性あり

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持された。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」であり、足元の景気が停滞していることが確認できる。

ただし、8月のC I一致指数の3ヶ月後方移動平均前月差の値は0.56ポイントと2ヶ月ぶりに上昇に転じている。基調判断が「足踏み」から「改善」へと上方修正されるための条件は、「原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇」であり、仮に9月、10月がともに僅かでも前月差プラスになれば、この条件を達成できる。生産予測指数が9月に前月比+2.2%、10月が+1.2%と増産を見込んでいることも考えると、基調判断上方修正は十分に射程内だろう。

「足踏み」判断は2015年5月以降、16ヶ月にわたって継続している。仮に10月分で基調判断が「改善」に上方修正されるようであれば、長らく続いた踊り場からの脱却の兆しとして注目される可能性があるため注意しておきたい。



(出所)内閣府「景気動向指数」